

今号の作業

ギヤチェンジペダルを取り付ける



今号では、「ギヤチェンジペダル」を「ミッション&ダイナモケースカバー」の側面に取り付ける。ミッション&ダイナモケースカバーの裏側には、変速操作時の感触を再現する機構が組み込まれているので、ペダルを操作すると“カチッ、カチッ”という感触を楽しめる。

今号のパーツ



- ① ミッション&ダイナモケースカバー×1
- ② ギヤチェンジペダルラバー×1
- ③ ギヤチェンジペダル×1
- ④ ギヤシフトスピンドル×1
- ⑤ ビス(Eタイプ)×2
(※1本は予備)
- ⑥ ビス(Bタイプ)×2
(※1本は予備)

用意するもの

- ・グリス(6号で提供したもの)
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
- ・油性ペン

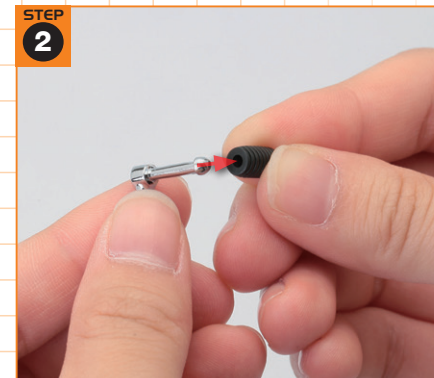
使用する道具

- ・+(プラス)ドライバー(1番)

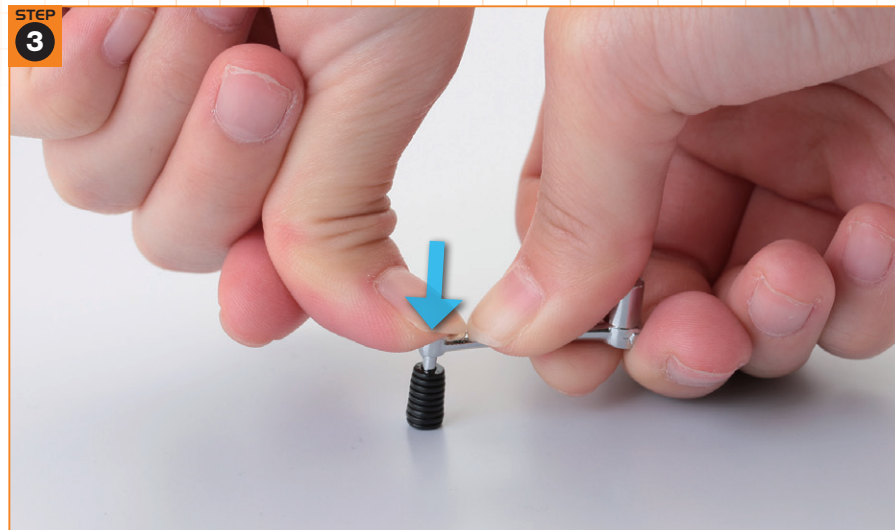
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。



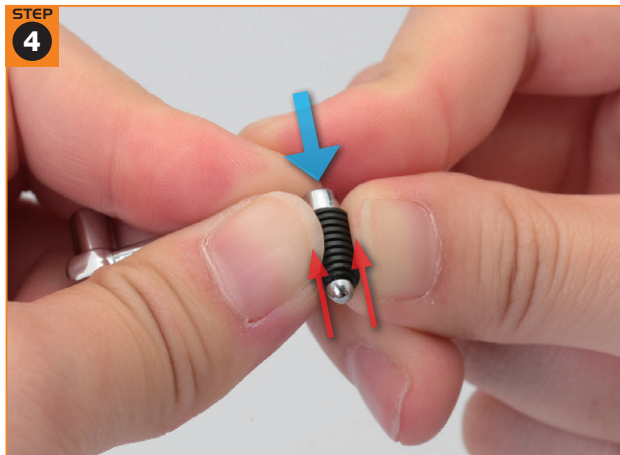
6号で提供したグリスを用意し、③ギヤチェンジペダル先端の丸い部分に少量を塗布する。もしもグリスがなくなってしまった場合は、油性のハンドクリームや食用油でも代用できる。



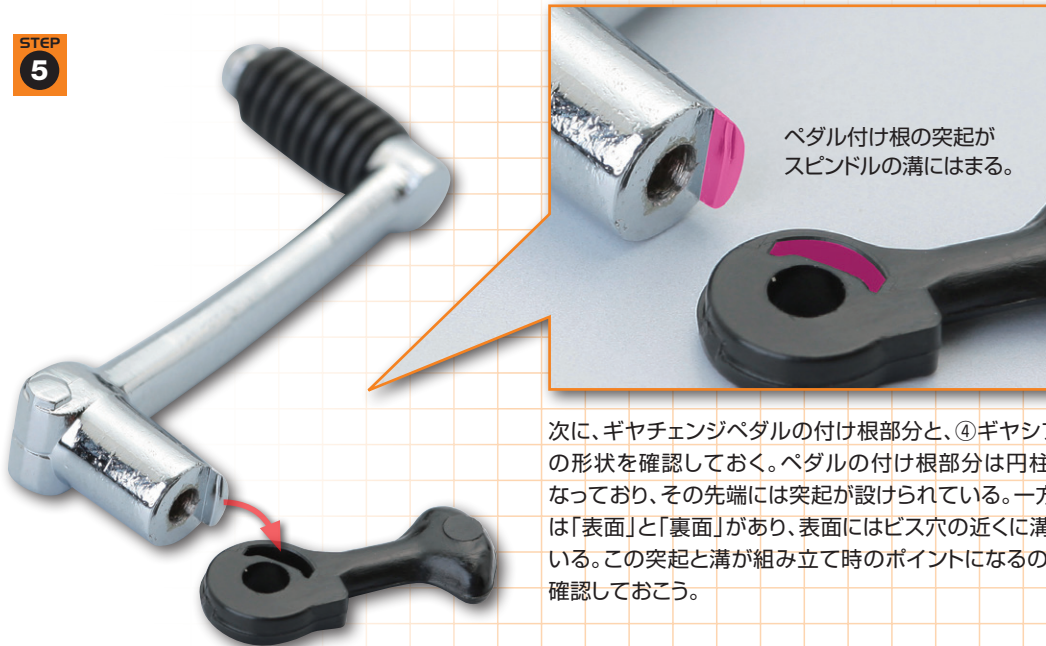
②ギヤチェンジペダルラバーを用意し、グリスを塗布したギヤチェンジペダル先端をラバーの穴に差し込む。なお、ラバーに向きの指定はないので、穴のどちら側から差し込んでも問題はない。



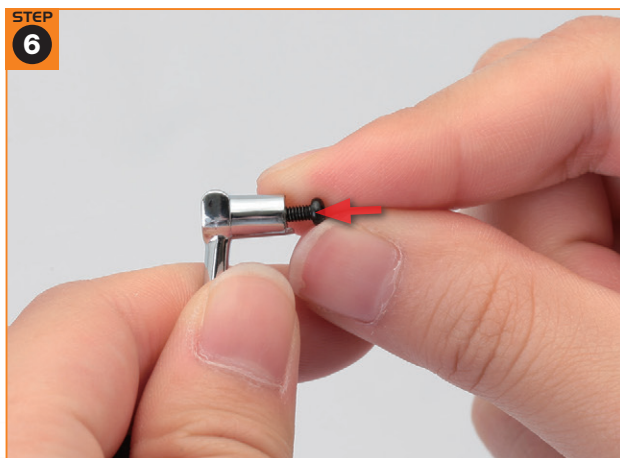
ギヤチェンジペダルラバーは軟質な樹脂製だが、指先で押し込むには硬い。写真のように平らな台にラバーの端をあて、上からペダルのシャフト部を押し込むようにすると良い。



ギヤチェンジペダルラバーの側面を写真の赤い矢印の方向に押し、ペダル先端の丸い部分を露出させる。



次に、ギヤチェンジペダルの付け根部分と、④ギヤシフトスピンドルの形状を確認しておく。ペダルの付け根部分は円柱状のポストになっており、その先端には突起が設けられている。一方のスピンドルは「表面」と「裏面」があり、表面にはビス穴の近くに溝が設けられている。この突起と溝が組み立て時のポイントになるので、しっかりと確認しておこう。



⑥ビス(Bタイプ)を用意し、ギヤチェンジペダル付け根のビス穴へセットし、タップを立てる準備をする。



1番の+(プラス)ドライバーを使い、ビスの長さの半分程度までねじ込む。その後、ドライバーを左に回してビスを抜き取る。



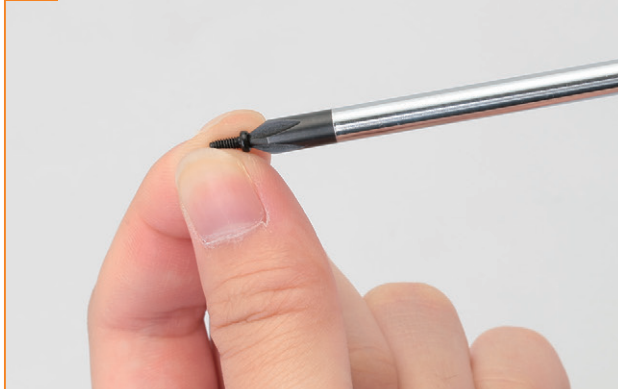
⑧ミッション&ダイナモケースカバーを用意し、写真に示した穴へ、ギヤチェンジペダルの付け根部分を差し込む。

STEP
9



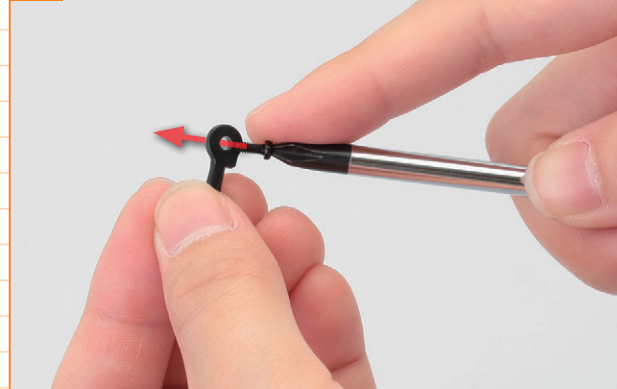
ギヤチェンジペダルの付け根部分を奥まで差し込み、軽く動くことを確認。その後、差し込んだギヤチェンジペダルが上になるよう、平らな台にミッション&ダイナモケースカバーを置いておこう。

STEP
10



1番の+(プラス)ドライバーの先端に、Bタイプのビスをセットする。

STEP
11



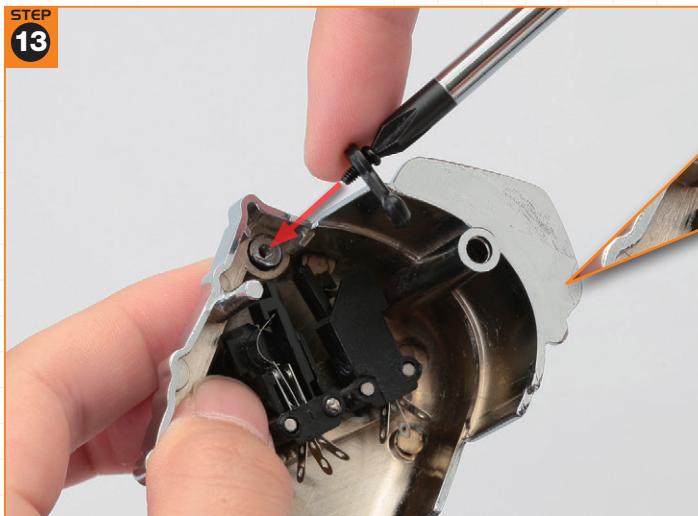
次にギヤシフトスピンドルを用意し、ビス穴へBタイプのビスを差し込む。この時、ビスはスピンドルの「裏面(溝が設けられていない側)」から差し込み、抜け落ちないように保持しておく。

STEP
12



ビスをスピンドルに差し込んだ状態。写真のように、貫通した側がスピンドルの「表面(溝が設けられている側)」であることを確認しよう。

STEP
13

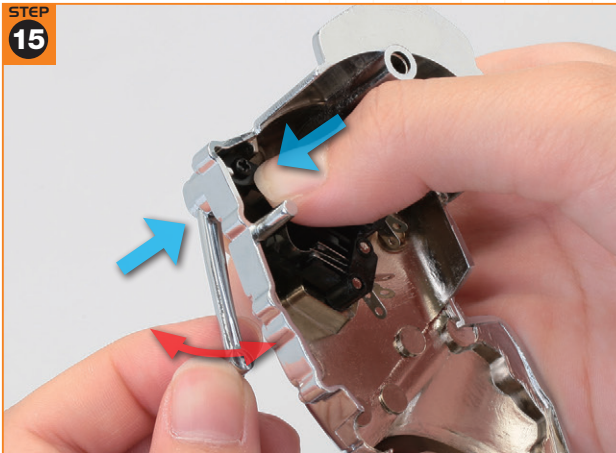


このすき間にスピンドルのアーム部をはめ込む。

差し込んでおいたギヤチェンジペダルが抜け落ちないように保持したまま、ミッション&ダイナモケースカバーを裏返す。次に、スピンドルに差し込んだBタイプのビスをギヤチェンジペダルのビス穴へセットする。この時、スピンドルのアーム部分は、写真に示した“ミッション&ダイナモケースカバー裏側に取り付けられているパーツの間”にはめ込む。

STEP
14

ギヤチェンジペダルが動かないように保持し、ドライバーを2回転ほど右に回して、スピンドルの仮留めを行う。

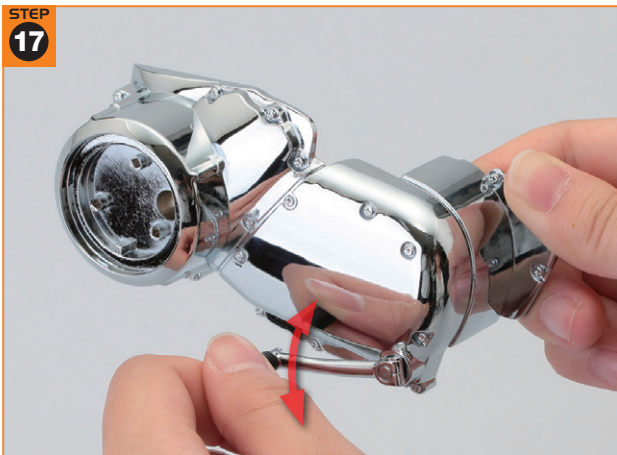
STEP
15

片手でスピンドルのアーム部分とビス穴の近くを押さえ、もう片手でギヤチェンジペダルを押し込みながら、ゆっくりと少しだけ動かす。すると、途中でスピンドルのビス穴部分が一段奥へ入り込む。これは、ペダル付け根の突起がスピンドルの溝にはまり込んだ合図だ。

STEP
16

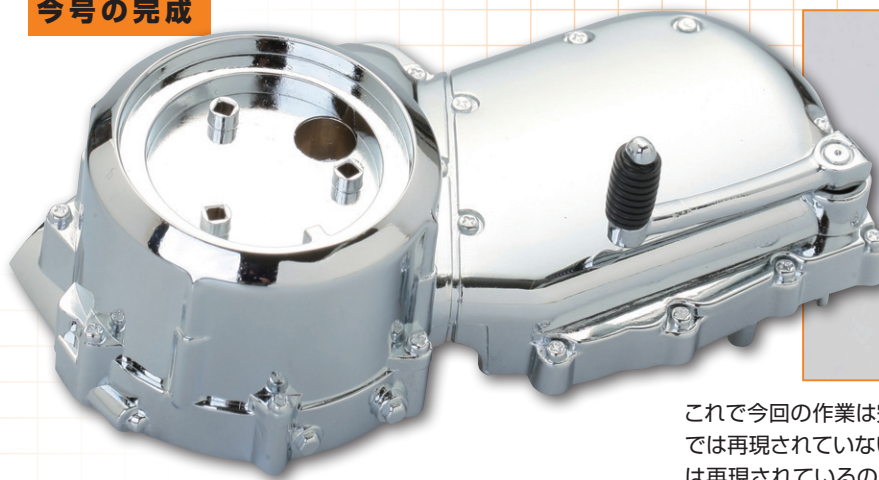
スピンドルが浮かないよう、しっかりと押さえておく。

⑯の感触があったらペダルを動かすのをやめ、スピンドルとペダルの付け根部分を挟み込むように押さえ、ドライバーでBタイプのビスを締め込む。

STEP
17

ギヤチェンジペダルを上下に動かし、カチッ、カチッという感触が伝わってくることを確認する。なお、もしもペダルの動きが渋い場合は、⑯で締め込んだビスを少しだけゆるめて、軽く動くように調整する。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。本モデルではミッションの内部構造までは再現されていないが、ペダル操作による“ギヤチェンジの感触”は再現されているので、それだけでも十分に実車の雰囲気を堪能できるだろう。なお、今回の作業で使用しなかったビスは、号数を記入したビニール袋へ入れて保管することをお勧めする。また、組み立てたパーツも次回の作業に備え、大切に保管しておこう。